

# 2024年3月期決算 及び 新中期経営計画

2025年3月期 - 2027年3月期

EXPLORER 

## ご説明資料

 ユシロ化学工業株式会社

Standard Market | 5013

2024年5月30日

ユシロ化学工業株式会社は、2025年4月1日より、  
**株式会社ユシロ**に社名を変更いたします。

※6/25株主総会の承認をもって

# INDEX

- 01 2024年3月期決算業績概要
- 02 新中期経営計画 2025年3月期～2027年3月期  
EXPLORER 
- 03 事業戦略
- 04 2025年3月期 業績予想

# 2024年3月期 決算業績概要

## 決算サマリー

### ● 売上高・利益とも過去最高を記録

#### 売上高

主要得意先である自動車メーカー・部品メーカーで、半導体等の部材不足による減産の影響が解消し、グループ全体として販売数量は回復傾向

**52,985**百万円（前期比13.2%増）

#### 営業利益

依然、原材料価格が高い水準で推移している中、販売価格の改定、原価低減等に取り組んだことに加え、為替換算の影響が大きく寄与

**3,619**百万円（前期比244.8%増）

#### 経常利益

持分法投資利益、円安による為替差益の計上が大きく寄与

**4,628**百万円（前期比220.8%増）

#### 親会社株主に帰属する当期純利益

特別損益で多額の計上はなくなったものの、経常利益の増加が大きく寄与

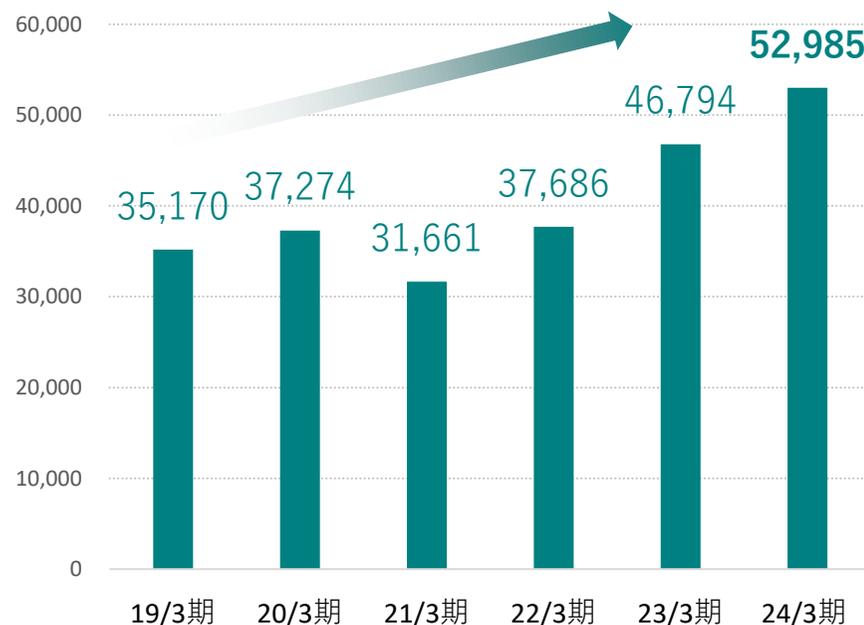
**3,010**百万円（前期比234.9%増）

## 2024年3月期実績（連結）

- 売上高は、原材料価格に追随した販売価格の改定でコロナ前の水準を大きく上回る
- 営業利益は、コロナ禍からの回復、販売価格改定及び円安による為替の影響により粗利確保で増加

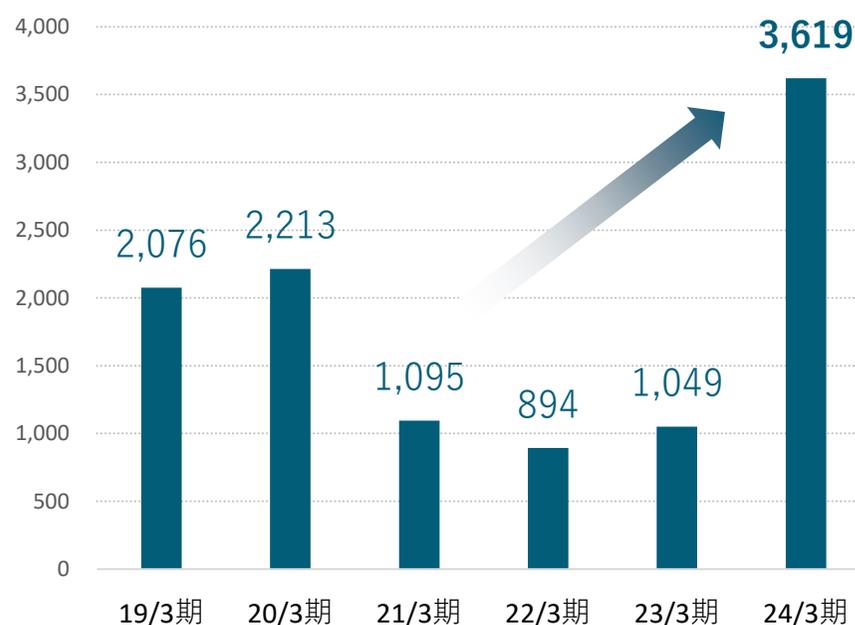
### 売上高

(百万円)



### 営業利益

(百万円)



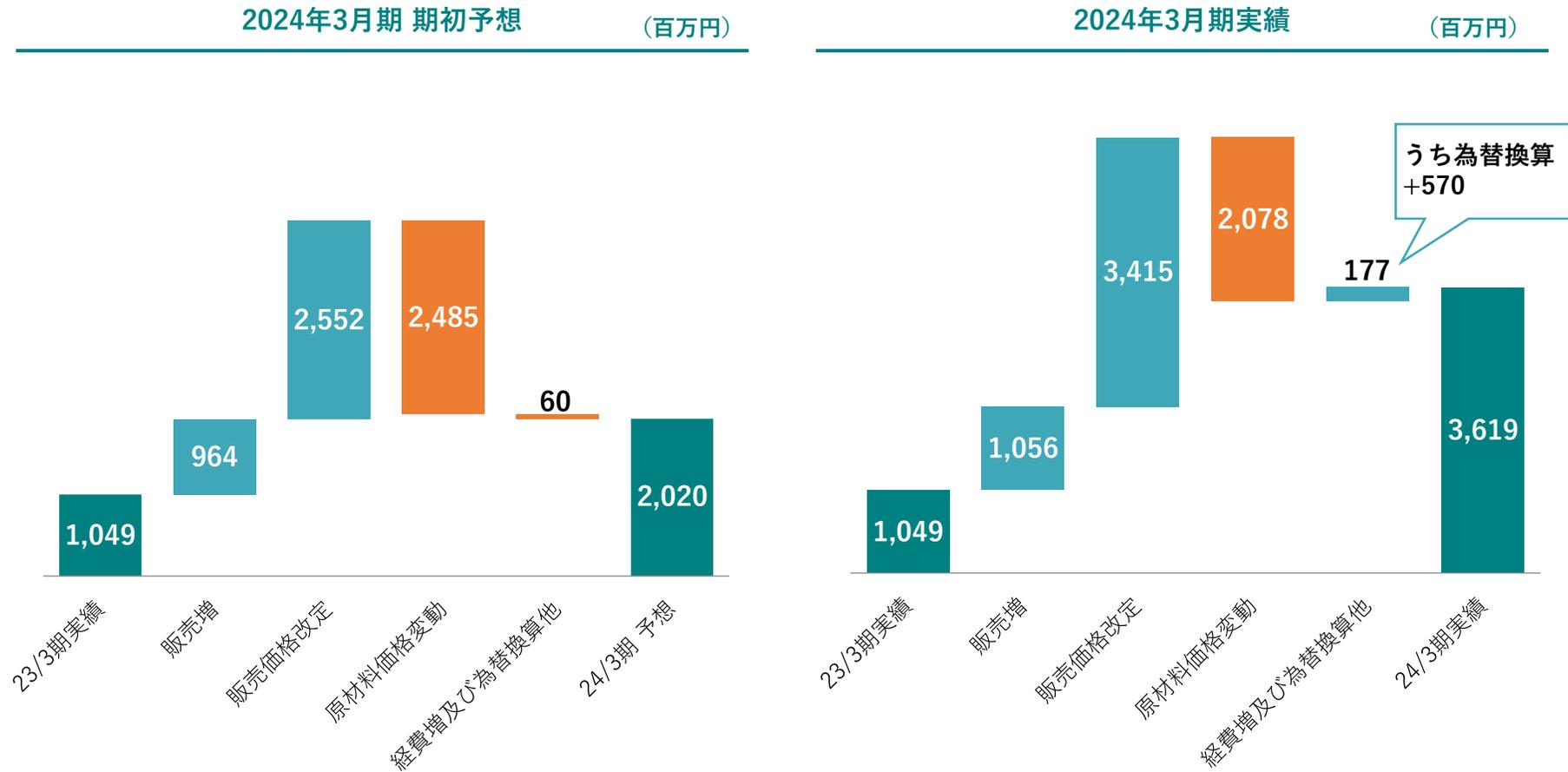
## 2024年3月期業績概要（連結）

- 主要得意先である自動車メーカー・部品メーカーにおいては、半導体等の部材不足による減産の影響が解消したことで、当社グループ全体として販売は回復
- 依然として原材料価格が高い水準で推移するも、販売価格の改定、原価低減等に取り組み、円安による為替換算上の影響もあって前期比で大幅増益

(百万円)	23/3期	業績予想 (期初)	業績予想 (24年2月6日開示)	24/3期実績	前期比	
					増減額	増減率
売上高	46,794	51,500	52,950	52,985	+6,190	+13.2%
営業利益	1,049	2,020	3,730	3,619	+2,569	+244.8%
経常利益	1,442	2,380	4,770	4,628	+3,185	+220.8%
当期純利益	898	1,650	3,160	3,010	+2,111	+234.9%
ROE	2.7%	—	—	8.0%	—	—

## 営業利益（連結）増減要因分析

- 期初予想に比べ原材料価格の変動が下回ったものの、販売価格の改定が期初予想を上回り大幅増益



## エリア別売上高

- 北米を中心に販売が好調に推移したこと、また円安による為替の影響もあり、セグメント構成で南北アメリカが日本を上回る

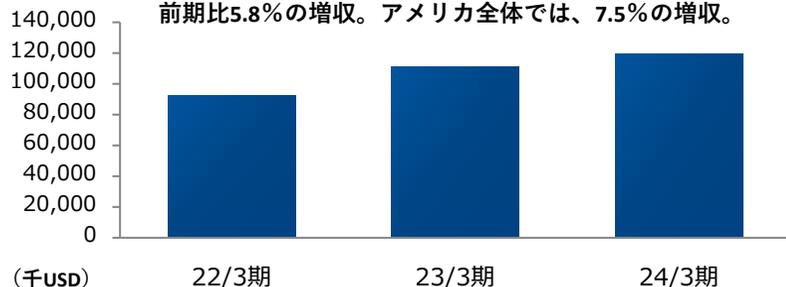
	23/3期実績		24/3期実績		23/3期との 比較 (売上高増減率)
	売上高 (億円)	構成比 (%)	売上高 (億円)	構成比 (%)	
日 本	179	38.4	196	37.0	+16億円 +9.1%
南 北 ア メ リ カ	170	36.4	206	39.1	+36億円 +21.5%
中 国	61	13.0	60	11.4	△0億円 △0.9%
東 南 ア ジ ア イ アン ド	56	12.2	66	12.5	+9億円 +16.7%

# 海外連結子会社売上高（現地通貨）

## アメリカ



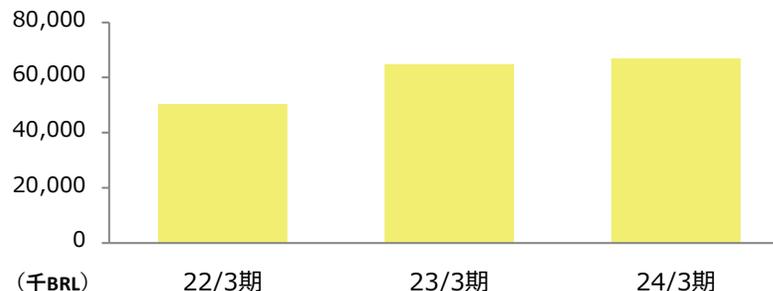
アメリカ・ユシロは主要得意先である日系自動車メーカーの稼働が好調に推移し、前期比10.8%の増収。クオリケム Inc.は好調な販売に加え、販売価格の改定の効果もあり、前期比5.8%の増収。アメリカ全体では、7.5%の増収。



## ブラジル



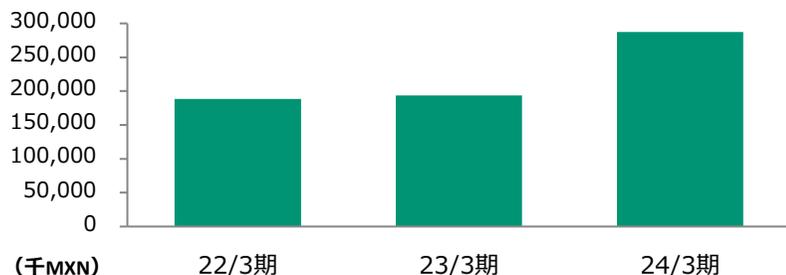
販売はやや伸び悩むも、販売価格の改定効果で前期比3.2%の増収。



## メキシコ



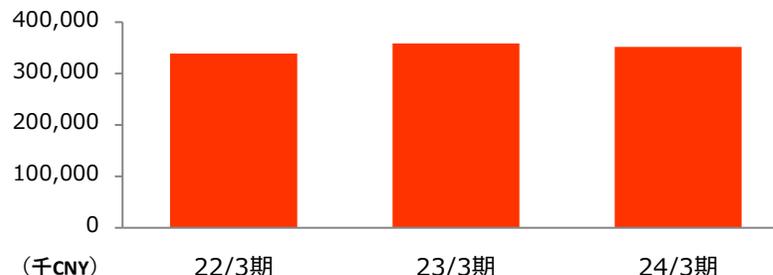
日系自動車メーカーの生産が急回復したことに加え、販売価格改定の効果もあり、前期比48.4%の増収。



## 中国



急激なEV化シフトを背景とした日系自動車メーカーの苦戦により販売は伸びず、前期比1.9%の減収。

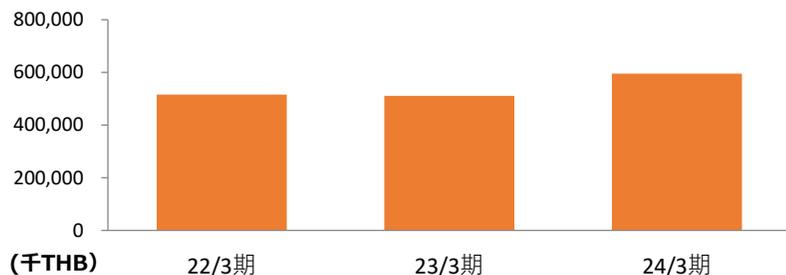


# 海外連結子会社売上高（現地通貨）



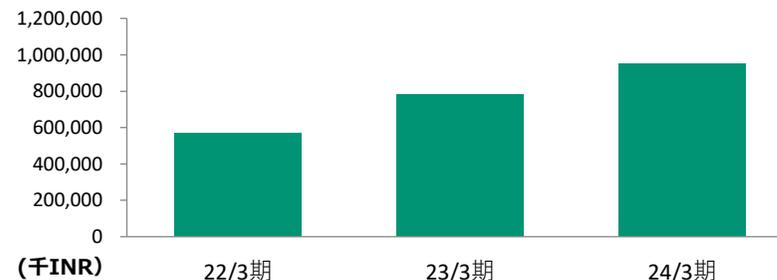
タイ

日系自動車メーカーの生産が年初より堅調に推移する中、販売価格の改定も進み、前期比16.6%の増収。



インド

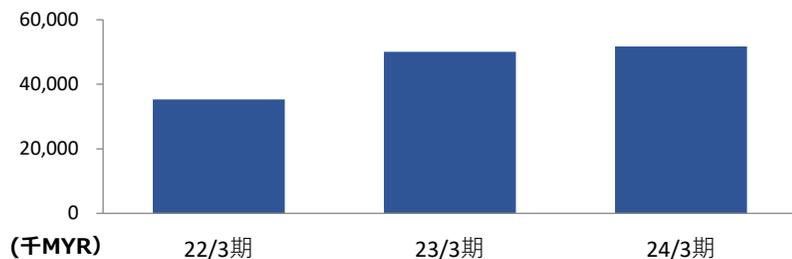
日系自動車メーカーの生産が好調に推移していることに加え、販売価格改定の効果もあり、前期比21.8%の増収。



マレーシア



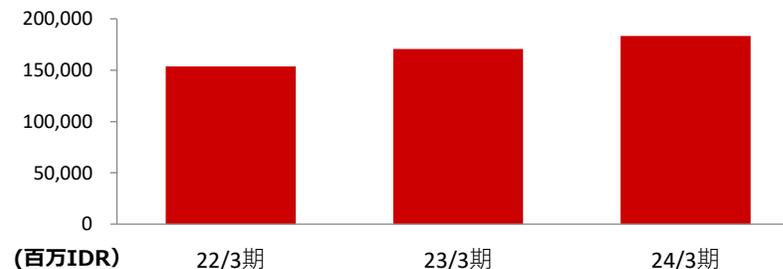
国内販売はやや伸び悩むも、輸出が好調に推移し、前期比3.3%の増収。



インドネシア



好調だった日系自動車メーカーの生産が下期やや減速するも、販売価格改定の効果もあり、前期比7.5%の増収。



## 貸借対照表（連結）

- 資産は、当期純利益の計上に加えて関係会社株式の一部売却により現金及び預金が増加
- 純資産は、当期純利益の計上に加えて円安による為替換算により増加

(百万円)	23/3期末	24/3期末	差額
資産合計	56,283	62,169	+5,886
負債合計	19,298	19,535	+237
純資産合計	36,984	42,633	+5,649

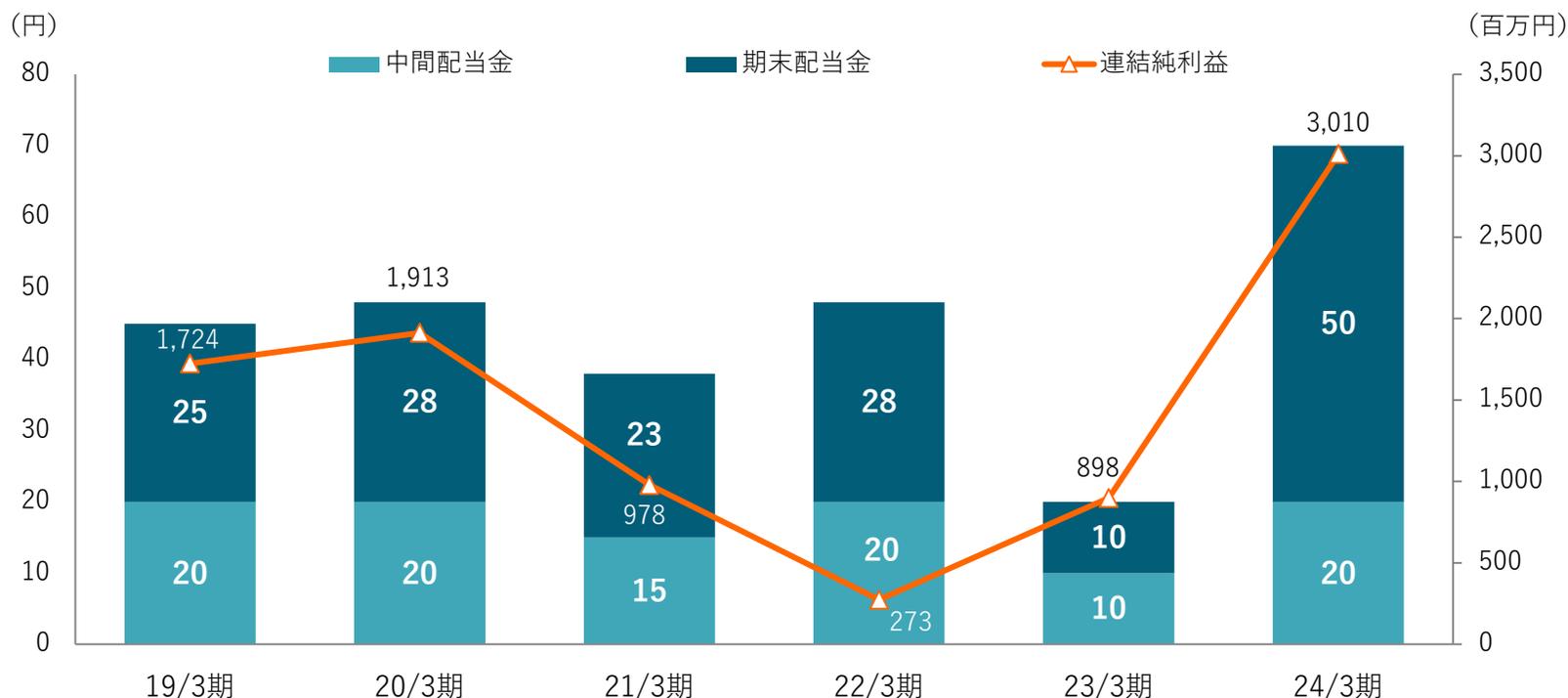
## キャッシュ・フロー計算書（連結）

- 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益の影響により変動
- 投資活動によるキャッシュ・フローは、関係会社株式の売却により変動
- 財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の減少等により変動

(百万円)	23/3期末	24/3期末	差額
営業活動によるキャッシュ・フロー	174	4,304	+4,130
投資活動によるキャッシュ・フロー	59	413	+353
財務活動によるキャッシュ・フロー	△83	△1,603	△1,519
現金及び現金同等物に係る換算差額	485	538	+53
現金及び現金同等物の増減額	636	3,654	+3,017
現金及び現金同等物の期首残高	6,691	7,327	+636
現金及び現金同等物の期末残高	7,327	10,981	+ 3,654

## 株主還元

- 連結配当性向を30%以上とし、投資とのバランスを考慮の上、安定的な配当を目指す



配当性向 (連結)	35.4%	34.1%	52.8%	239.2%	30.3%	<b>31.7%</b>
純資産配当率 (連結)	2.0%	2.2%	1.7%	2.1%	0.8%	<b>2.6%</b>
1株当たり 配当金	45円	48円	38円	48円	20円	<b>70円</b>

新中期経営計画 2025年3月期 - 2027年3月期

EXPLORER  PLUS

# 新中期経営計画の位置づけ

RECOVER<sup>+</sup> PLUS

EXPLORER<sup>+</sup> PLUS

Yushiro  
Mutual Progress  
Vision2030

前中期  
経営計画

新中期経営計画

長期  
ビジョン

ICE\*生産の  
ピークの3年間

長期ビジョンの  
戦略実行の絞り込みと集中  
ICE関連事業は採算重視の運営を行い  
ICE関連事業以外で収益のコアを構築

ICE関連事業以外の  
用途を開拓、成長路線へ

※ICE (Internal Combustion Engine 内燃機関) : ガソリン車・ディーゼル車に使用されるエンジン

# 長期ビジョン実現のための新中期経営計画全体像



## 産業・社会発展を持続可能にする グローバルケミカルカンパニー



～Chemical innovationでCircular economyに貢献～

### 既存事業の進化

### 新領域の開拓

#### モノづくり

顧客の  
高度なモノづくりに貢献

EV対応  
航空機・医療展開  
半導体・工作機械  
塑性加工展開  
ギガプレス離型剤  
CO<sub>2</sub>削減洗浄剤

#### クレンリネス

心地よく、  
安心できる空間の実現

コーティング展開  
車両展開  
洗濯槽販路拡充

#### キー・マテリアル

機能性材料で  
サステナビリティ材料の  
パイオニア

CD誘導体展開  
CD誘導体生産体制  
光触媒新用途  
↓  
ヒカリアクションシリーズ

#### 新規事業

当社の柱となる事業を創出

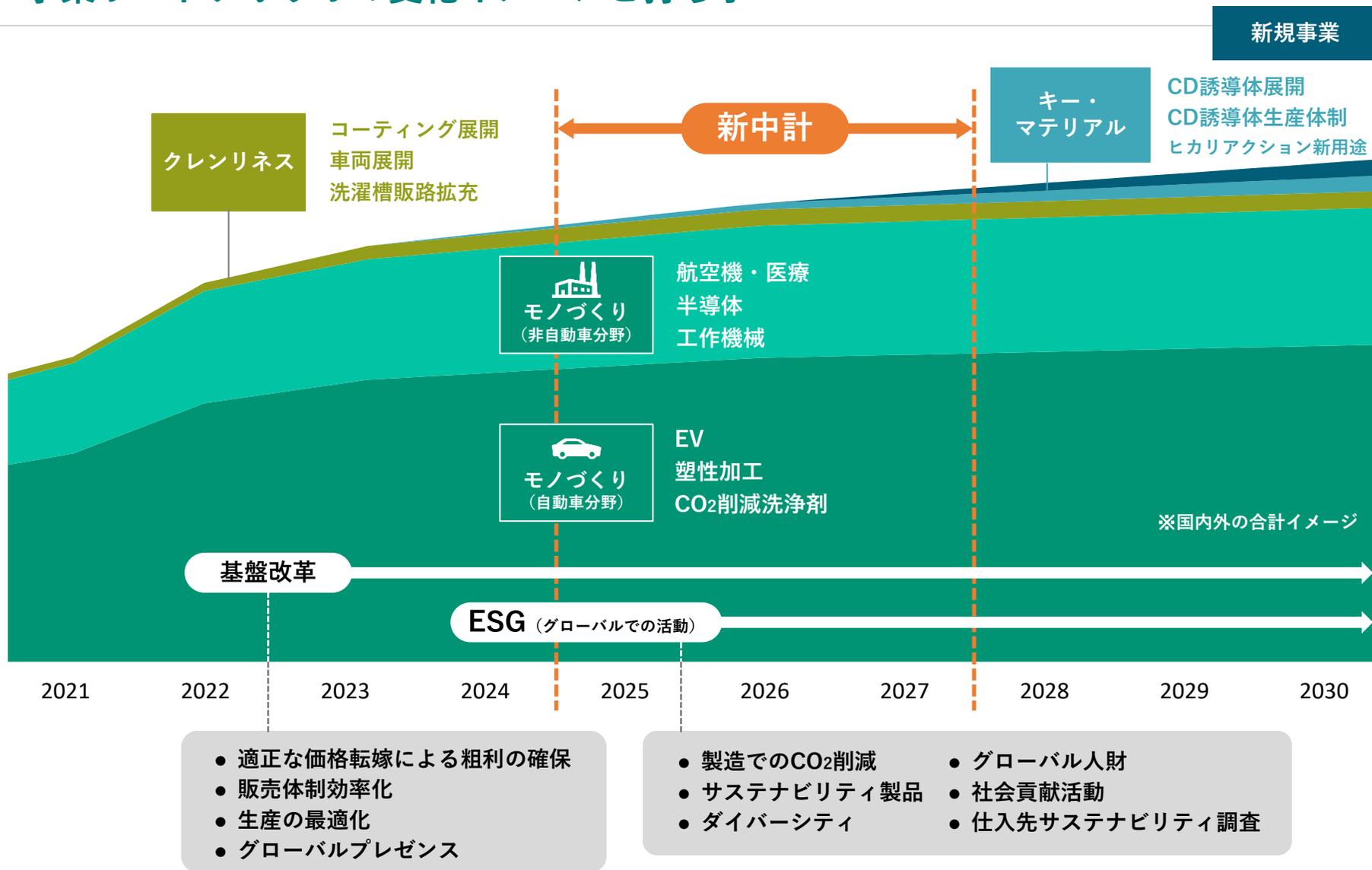
キー・マテリアルに続く  
さらなる新規事業の創出

#### 基盤改革

#### ESG（グローバルでの活動）

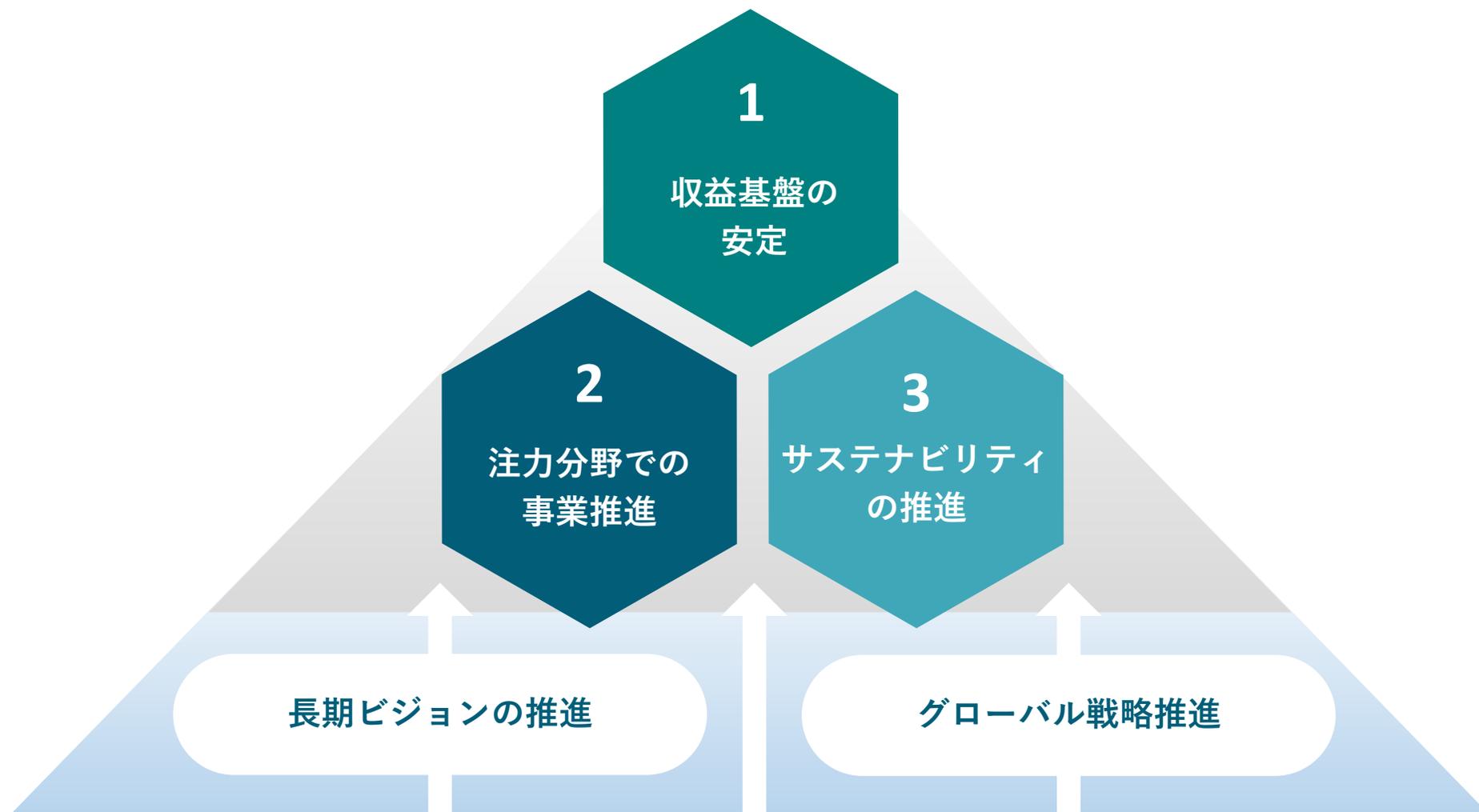
※CD誘導体：当社合成技術を加えた化学反応性のシクロデキストリン（CD）の意。CDは植物由来のカーボンニュートラルな原材料

# 事業ポートフォリオの変化イメージと打ち手



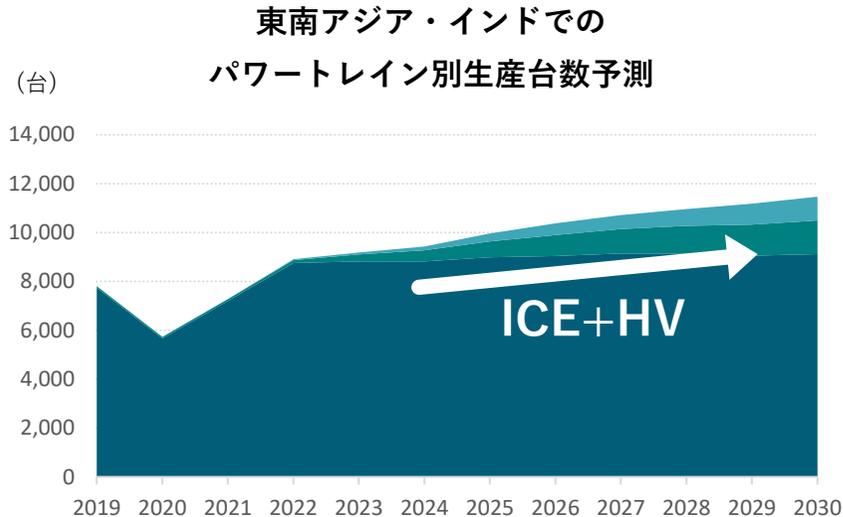
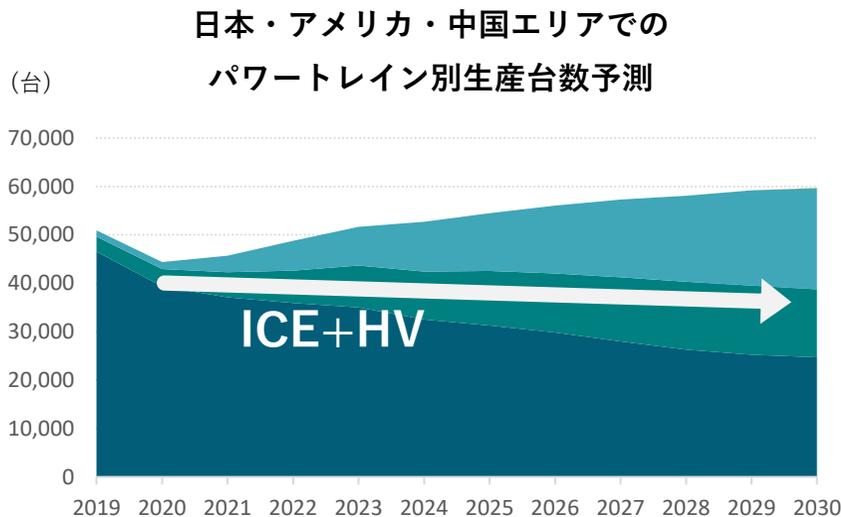
※CD誘導体：当社合成技術を加えた化学反応性のシクロデキストリン（CD）の意。CDは植物由来のカーボンニュートラルな原材料

# 基本方針



## 自動車のパワートレイン別生産台数予測と戦略

- 全体的には自動車生産台数は増加するが、エンジンの世界生産(ICE+HV)は横ばい傾向
- (日本・アメリカ・中国) EV向け製品の本格投入
- (東南アジア・インド) 成長する市場のフォロー



出典:GlobalData

■ ICE only ■ HV ■ BEV ■ FCV

■ ICE only ■ HV ■ BEV ■ FCV

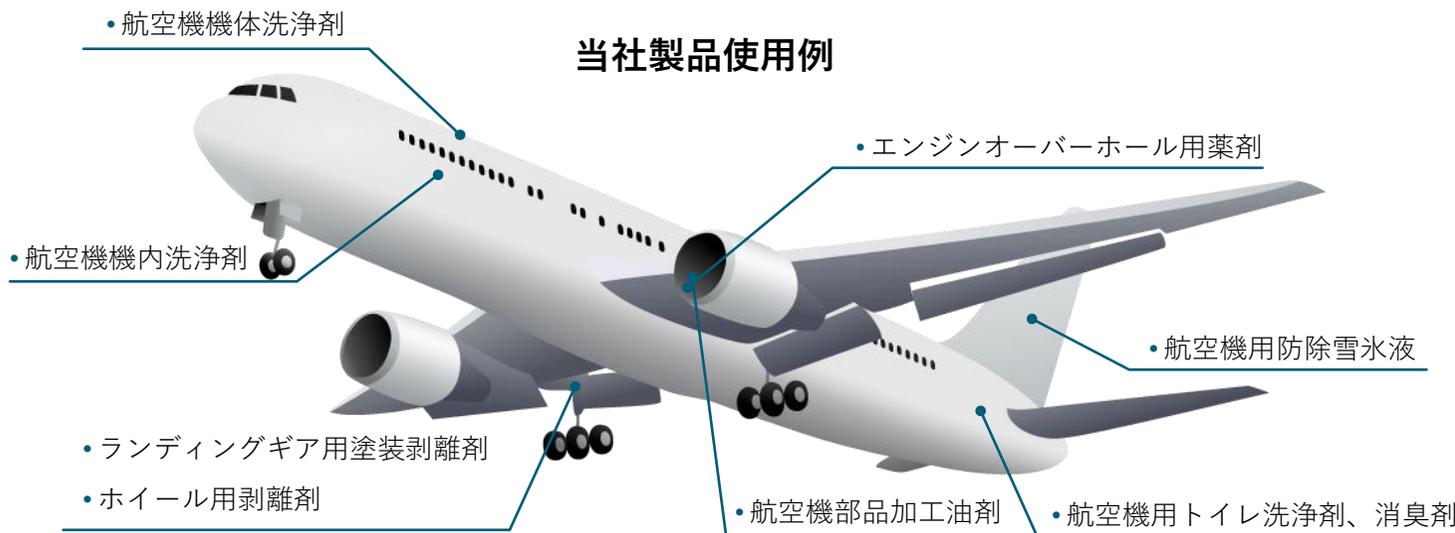
- ・ ICE向けは採算重視で展開
- ・ EV向け製品投入
- ・ 中国はEV化対応と収益改善

EV向け  
新工法製品  
常温洗浄  
素形材

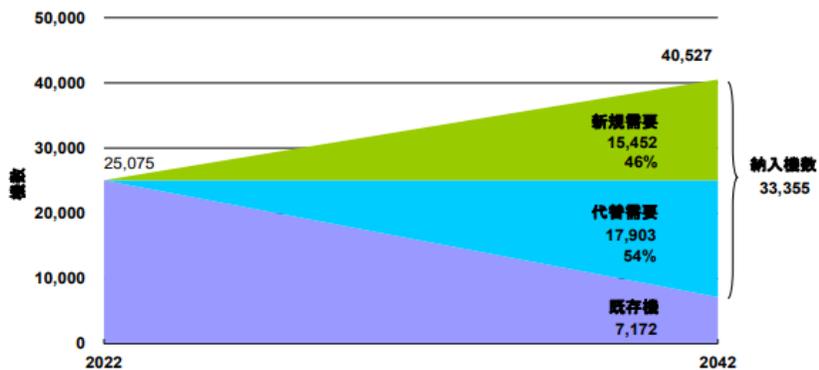
- ・ ICE向けの成長をカバー
- ・ EV向け製品投入
- ・ 製品問わず成長する市場へ拡販フォロー

※ICE (Internal Combustion Engine 内燃機関) : ガソリン車・ディーゼル車に使用されるエンジン

● 世界的に航空機運航・生産需要は増加が見込まれる



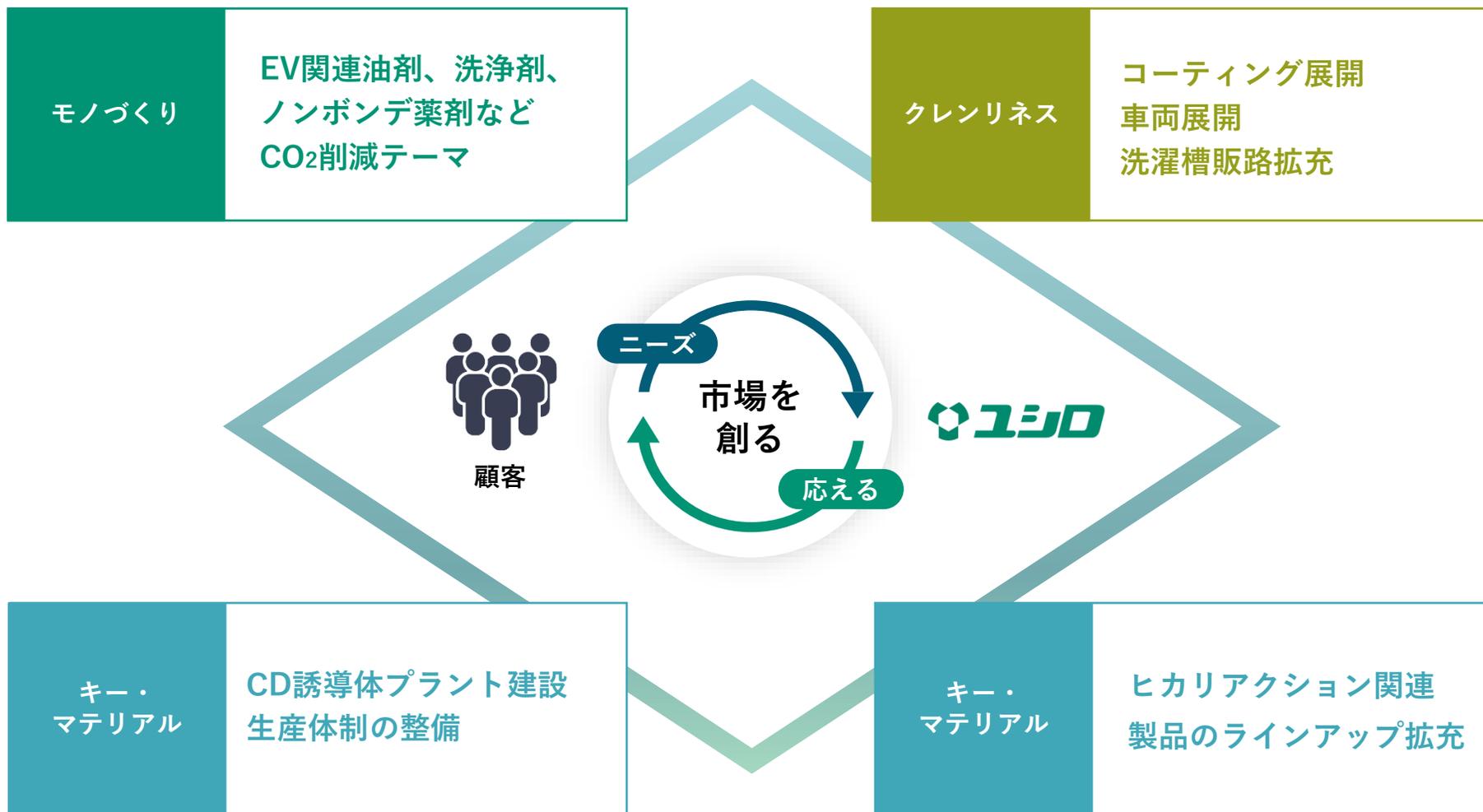
ジェット旅客機の需要予測結果



出典:一般社団法人日本航空機開発協会

- 米州実績での航空機部品向け油剤、メンテナンス用部品洗浄剤の拡販
- 東南アジア・インド・欧州におけるビジネスの販路拡充

基本方針② 注力分野での事業推進  
4つの分野を開拓



※CD誘導体：当社合成技術を加えた化学反応性のシクロデキストリン（CD）の意。CDは植物由来のカーボンニュートラルな原材料

## 評価の方向性を定めモニタリング実施

- 当社サステナビリティ基本方針に基づきESG関連データを整備
- 本中期経営計画期間で経営陣により評価を実行

分野	KPI・項目	分野	KPI・項目
環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>● CO<sub>2</sub>排出量</li> <li>● ドラム缶回収率</li> <li>● 廃油再生率</li> <li>● ベースオイルに占める非石油由来原料使用</li> <li>● 各種法規制逸脱指摘件数</li> </ul>	化学物質	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 政府指摘件数</li> <li>● 政府報告件数</li> </ul>
安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 労働災害件数</li> <li>● リスクアセスメント実施件数</li> <li>● 安全衛生委員会開催件数</li> <li>● 過去災害事例等を用いた教育の回数</li> </ul>	贈収賄・ 腐敗行為 防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 贈収賄・腐敗行為防止に関連する重大な法令違反件数</li> <li>● 従業員へのビジネス・コンダクト・ガイドラインの周知回数</li> </ul>
品質	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 工場責任者会議開催件数</li> <li>● 品質監査実施回数</li> <li>● 全社責任者会議での品質関連テーマ報告件数</li> <li>● 顧客満足度調査評点</li> </ul>	人権	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 女性従業員比率</li> <li>● 年次有給休暇取得率</li> <li>● 差別・ハラスメントに関する教育：教育・研修件数</li> <li>● ストレスチェック実施人数</li> </ul>

## 経営目標

- 原材料の高騰による見かけ上の急激な売上高の上昇は終了
- 本中期経営計画期間は安定成長と収益確保へ

(億円)	24/3期実績	25/3期予想	27/3期目標 (中計3年目)	24/3期との比較
売上高	529	555	<b>600</b>	<b>+71</b>
営業利益率	36 6.8%	36 6.6%	<b>50 8.3%</b>	<b>+13 +1.3%</b>
経常利益	46	43	<b>61</b>	<b>+14</b>
当期純利益	30	31	<b>43</b>	<b>+12</b>
ROE	8.0%	7.5%	<b>10.0%以上</b>	<b>+2.0%以上</b>

※2025年業績予想は145 ¥/\$、2027年目標については140 ¥/\$

## 経営目標（エリア別売上高）

- 航空機需要の伸びがある南北アメリカ、ICE生産の拡大がある東南アジア／インドで売上の成長を狙う

	24/3期実績		25/3予想		27/3期目標 (中計3年目)		24/3期との 比較 売上高増減率
	売上高 (億円)	構成比 (%)	売上高 (億円)	構成比 (%)	売上高 (億円)	構成比 (%)	
日 本	196	37.0	202	36.5	<b>227</b>	<b>37.8</b>	+31億円 +16%
南北アメリカ	206	39.1	224	40.4	<b>236</b>	<b>39.3</b>	+30億円 +15%
中 国	60	11.4	60	10.9	<b>64</b>	<b>10.7</b>	+4億円 +7%
東南アジア イ ン ド	66	12.5	67	12.2	<b>73</b>	<b>12.2</b>	+7億円 +11%

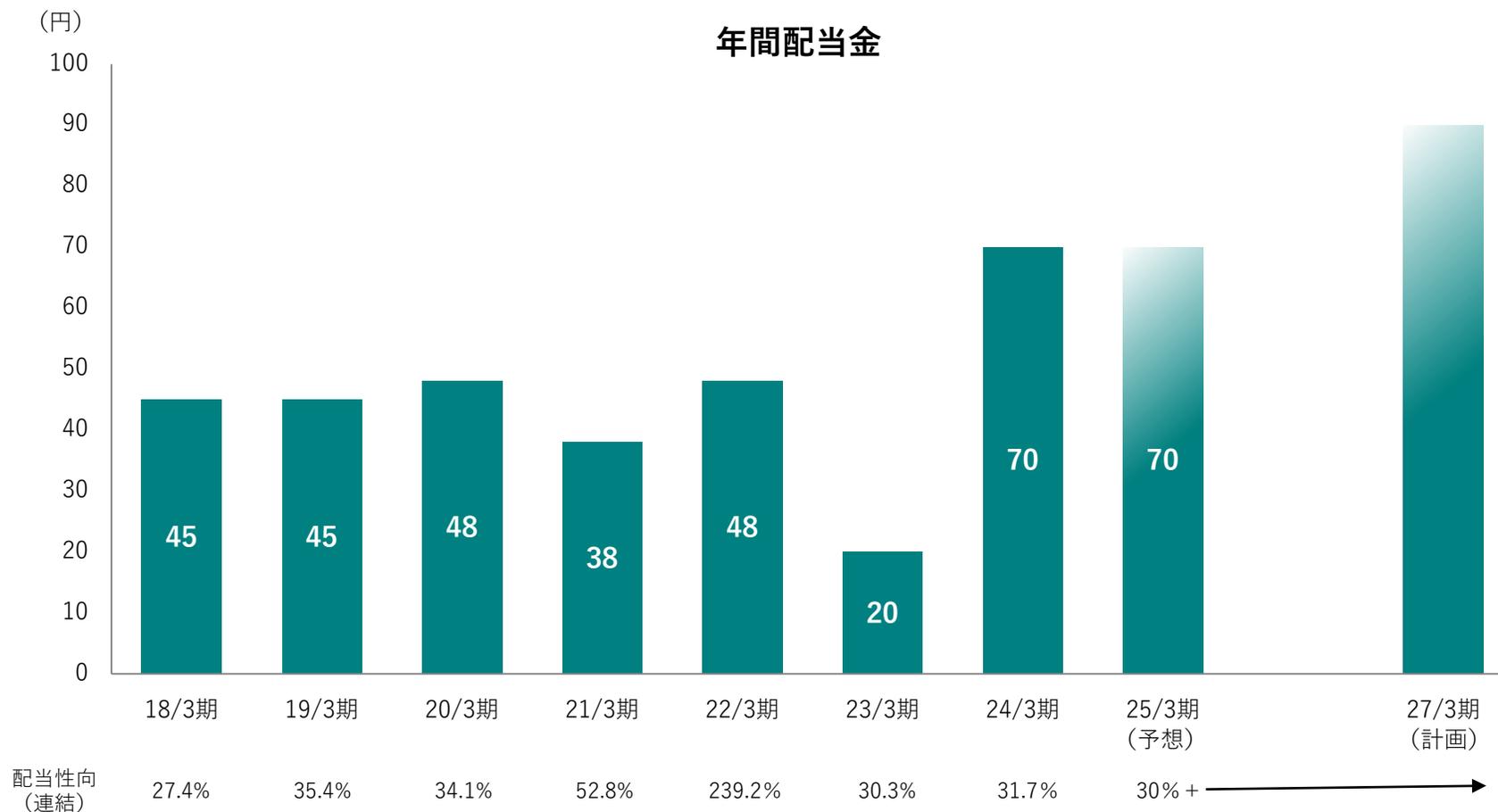
※2025年業績予想は145 ¥/\$、2027年目標については140 ¥/\$

- 本中期経営計画期間は営業CFの半分を投資などに充て、成長機会を探索



## 配当方針

- 安定的・持続的に配当を行うことを方針とし、連結配当性向を30%以上とする



# 事業戦略



## ● 海外との連携を強化

方向性	戦略	現状評価
EV化対応	新工法・新素材への対応	製品の開発完了 顧客紹介中
自動車以外への拡販	航空機クラスター企業への展開	北米は順調に展開中 北米以外の地域へ開拓中
既存分野シェア拡大	塑性加工油剤のシェア拡大	製品ラインアップ構築・展開中 展開先への選定が必要
環境への貢献	顧客のCO <sub>2</sub> 削減	製品ラインアップ構築・展開中 展開先への選定が必要

## クレンリネス

- ガラスコーティング・車両・洗濯槽クリーナーに注力
- 海外販路など積極的に開拓

方向性	戦略	現状評価
ガラスコーティング剤拡販	施工会社との協業	2024年3月 本格販売開始
ビルメンテナンス隣接市場の開拓	オフィス／車両／住居向け 販路拡充	車両向け製品を展開中
OEM先との連携	店舗販路の維持・創出	洗濯槽クリーナーの販路拡充 海外向けに展開も

# クレンリネス

## ● 隣接市場の開拓

### ポリーズユシロクリーナー



機械洗浄にフィット

高い洗浄性

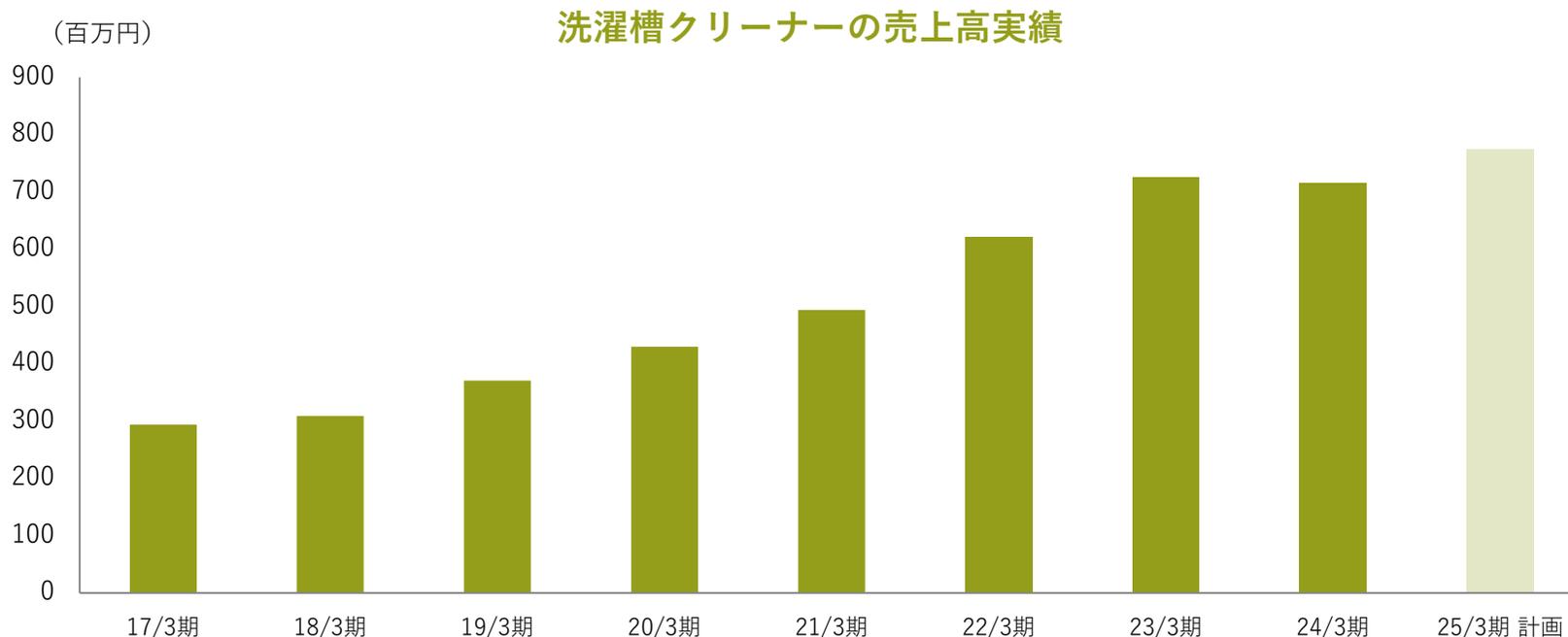
洗浄後の仕上がり

### 戦略

- 洗浄作業の軽減などの顧客ニーズに対応
- 用途に応じた開発品の投入
- 販売先：鉄道各社

# クレンリネス

## ● 洗濯槽クリーナーでのOEM先との連携



### 戦略

- 家電メーカー業界の洗濯槽クリーナーの認知による底上げ
- 衛生面に対する意識の維持によりリピート需要
- OEM先との戦略共有

## キー・マテリアル

- 製造体制を整備し、様々な供給形態へ対応

方向性	戦略	現状評価
ヒカリアクションの 隣接分野への展開	ヒカリアクションの 新規隣接分野への展開	「ぴきゃみん」展開中 「おそとのぴきゃみん」新発売
CD誘導体の用途・技術開発	CDの包接機能を 軸とした素材、用途開発	多分野からの引き合い 顧客での適用評価継続中
柔軟な生産体制	受注～製品製造～出荷納品までの 社内システム、スキームの最適化	スケールアップ中 新ラインの計画具体化

※CD誘導体：当社合成技術を加えた化学反応性のシクロデキストリン（CD）の意。CDは植物由来のカーボンニュートラルな原材料

### ● CD誘導体の引き合いに手ごたえ

機能性向上添加剤（モノマー/ポリマー）※

既存の樹脂に添加することにより強度向上・強靭性を付与できる

様々なCD誘導体（モノマー）



YNB-W200シリーズ（ポリマー）



強度・伸びの機能向上

自己修復性付与

新たな付加価値の付与

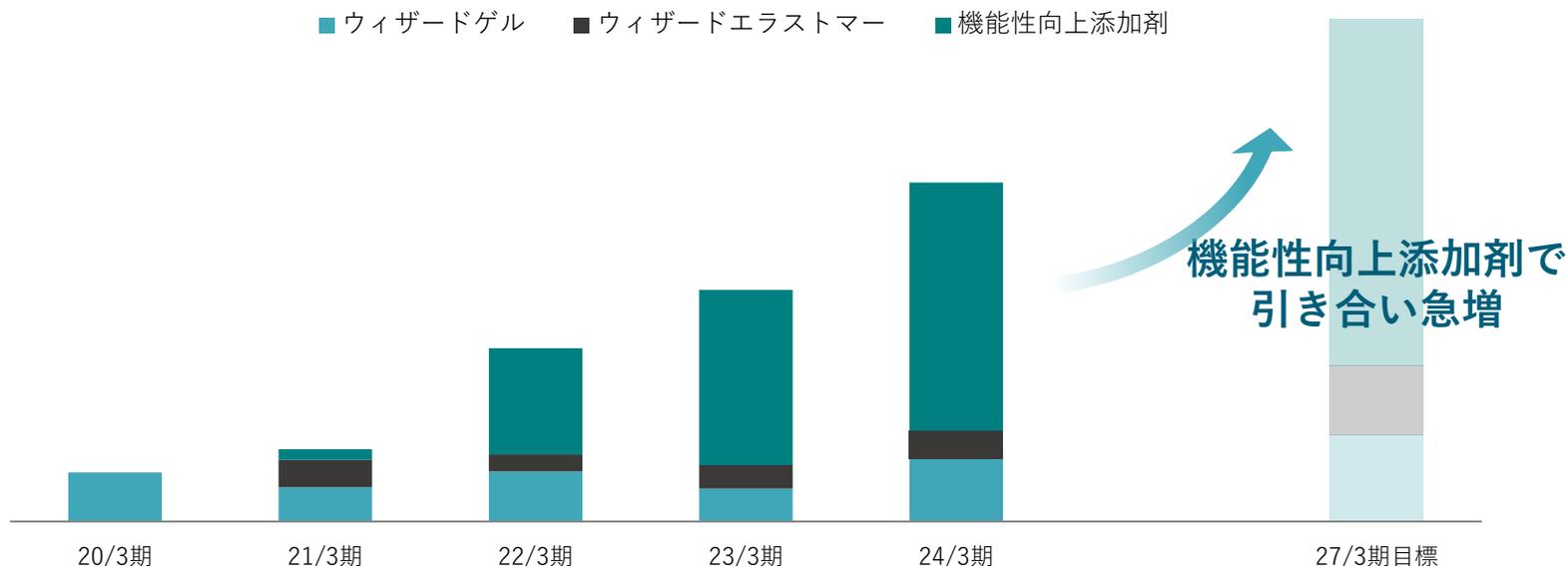
#### 実績

- 顧客の使用状況に応じて、ラインアップ拡充
- 販売パートナーの拡充による、製品紹介増加
- 販売先：素材メーカー、大学、研究機関

※CD誘導体：当社合成技術を加えた化学反応性のシクロデキストリン（CD）の意。CDは植物由来のカーボンニュートラルな原材料

## ● CD誘導体関連製品は、順調に推移

### 売上高実績



### ウィザードゲル

- ・ 切断傷も修復可能な水分を含む柔らかな材料
- ・ 型に注ぎ、あらゆる形に成形が可能



### ウィザードエラストマー

- ・ 紫外線で硬化可能
- ・ 溶媒を含まないゴムライクな材料
- ・ 光造形方式の3Dプリンターにも適用可能

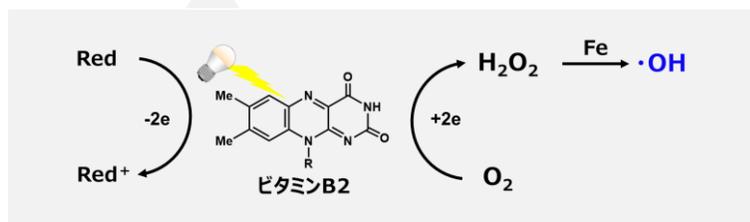


※CD誘導体：当社合成技術を加えた化学反応性のシクロデキストリン（CD）の意。CDは植物由来のカーボンニュートラルな原材料

## キー・マテリアル

### ● ヒカリアクションの隣接分野への展開（ビタミン系光触媒添加剤 ジェンタミン）

光と酸素を活用して活性酸素種を発生させることで  
微生物、ウイルス、悪臭成分などを分解



#### ヒカリアクションの力で顧客の課題を解決

##### 除菌・消臭

食品工場・医療現場向けの除菌消臭剤

##### 防腐・浄化

植物工場・養殖・クーリングタワー等、  
循環水の防腐・浄化

##### 物質の分解

汚染物質、残留農薬の分解による  
水質改善により持続的な社会の実現

#### 戦略

- ヒカリアクションの機能を用いた製品の開発・展開の推進
- 光触媒工業会（PIAJ）認証を取得した製品「ぴきゃみん」を中心にコンシューマー向け販路拡大を目指す

# 2025年3月期 業績予想



## 2025年3月期 業績予想（連結）

- 売上高は、北米地域の販売が牽引し増収を予想
- 利益面は、原材料価格の高止まり、人件費増の影響あるも、適正な価格転嫁によるマージンの改善により前期並みの利益を確保。なお、経常利益は、前期の為替差益の計上がなくなるためマイナス

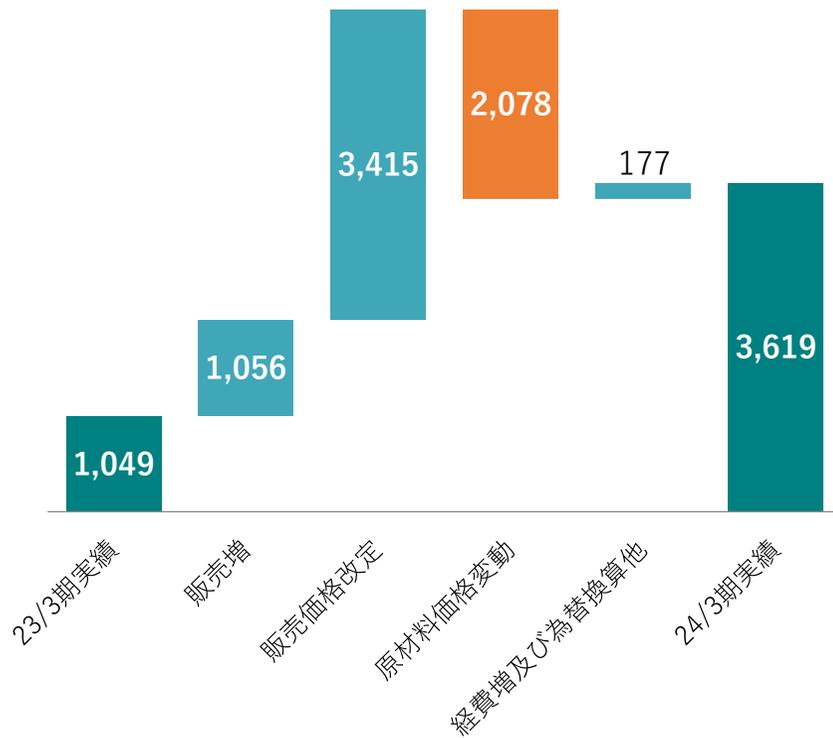
(百万円)	24/3期実績	25/3期予想	前期比	
			増減額	増減率
売上高	52,985	55,500	+2,515	+4.7%
営業利益	3,619	3,680	+61	+1.7%
経常利益	4,628	4,340	▲288	▲6.2%
当期純利益	3,010	3,100	+90	+3.0%
R O E	8.0%	7.5%	—	—

※2025年業績予想は145 ¥/\$

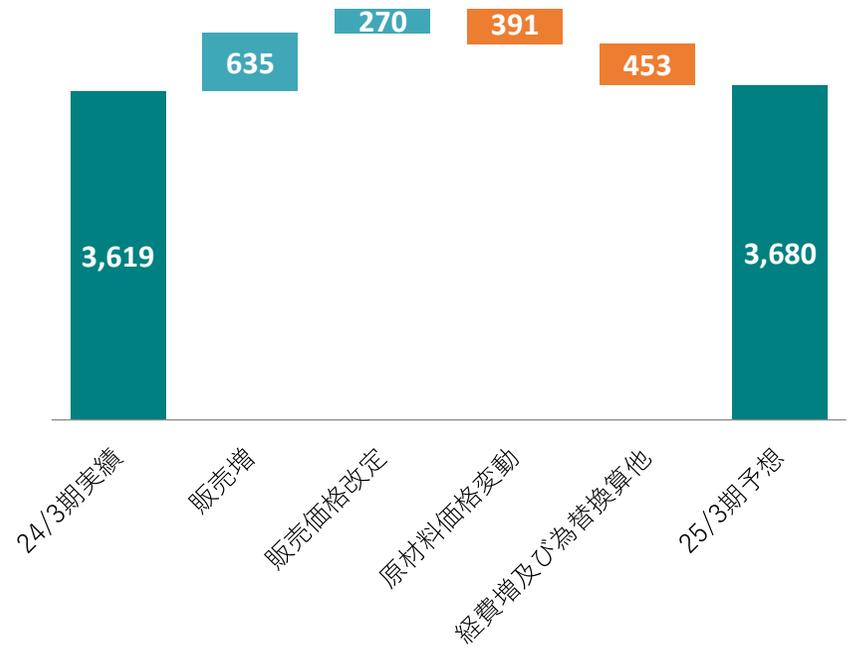
## 営業利益（連結）増減要因分析

- 24/3期は販売価格の改定が進み増益
- 25/3期も引き続き粗利の確保により増益を想定

2024年3月期実績 (百万円)



2025年3月期予想 (百万円)



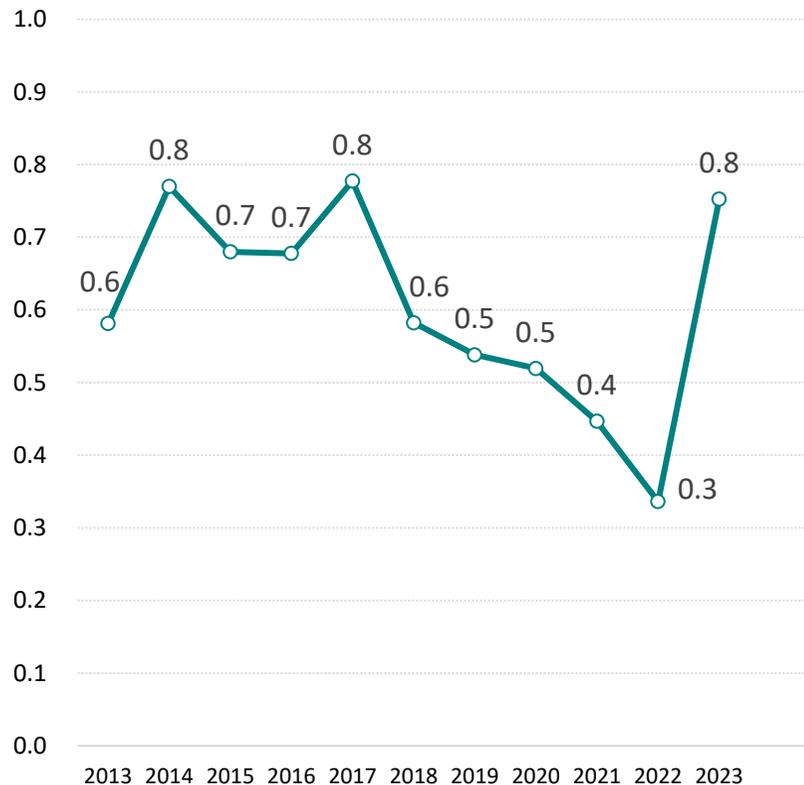
## 2025年3月期の主な取り組み

1	原材料価格上昇への対応	<ul style="list-style-type: none"><li>• 原材料価格の上昇を捉えた適正な価格転嫁の実施</li><li>• サステナブルな原材料調達</li></ul>
2	金属加工油剤の販売拡大	<ul style="list-style-type: none"><li>• 自動車業界隣接分野及び他市場への参入・拡大</li><li>• 航空機など非自動車分野への高付加価値製品の拡大</li><li>• 環境に優しい切削油剤、CO<sub>2</sub>削減に貢献する液切れ性の良い洗浄剤を展開</li></ul>
3	市場開拓	<ul style="list-style-type: none"><li>• CD誘導体の機能性添加剤としての販売先拡大と量産体制構築</li><li>• ヒカリアクション製品のラインアップ拡充</li><li>• 車両洗浄および床用ガラスコーティング剤の販売拡大</li></ul>
4	ESG戦略の推進	<ul style="list-style-type: none"><li>• サステナビリティ推進委員会の取り組みによる推進</li><li>• ESG推進項目のKPI化と目標設定</li></ul>

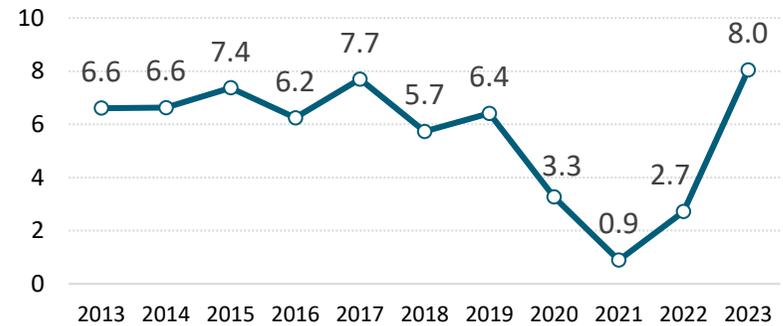
## PBR改善に向けた取り組み（現状分析）

- PBRは2023年度に上昇しているものの1倍割れが継続。  
株主資本コストを上回るROE水準の確保が課題

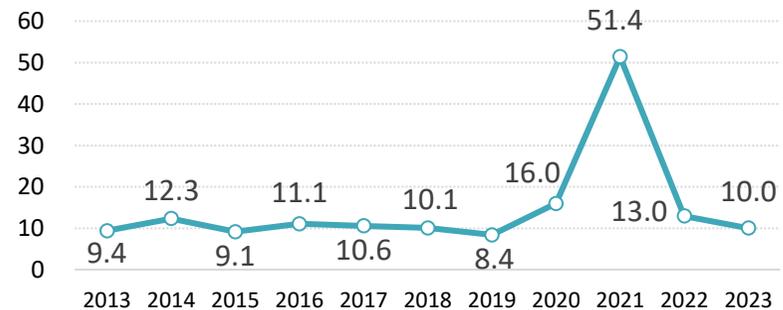
PBR (倍)



ROE (%)

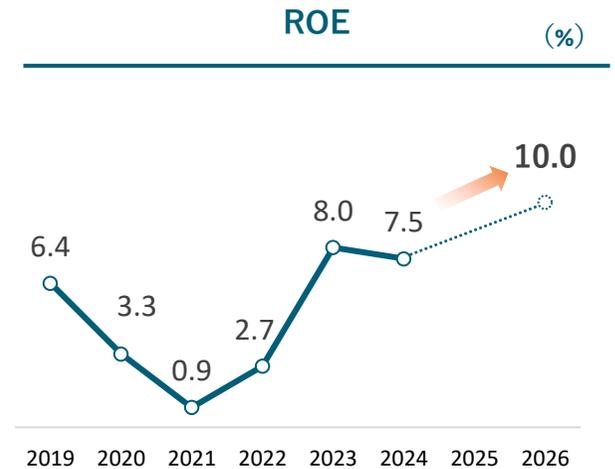
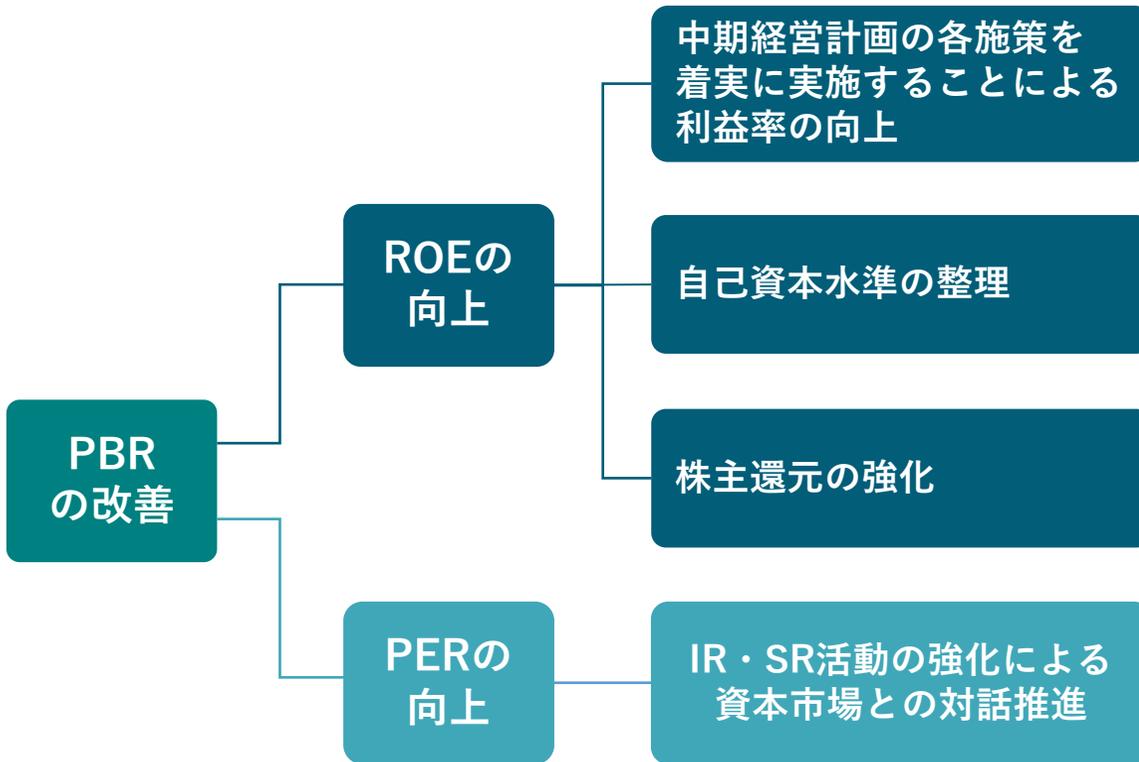


PER (倍)



## PBR改善に向けた取り組み（対応方針）

- 中期経営計画の着実な推進により経営目標の達成を目指すとともに、ROEとPERの向上を重要課題として各種施策に取り組む



## 当資料取扱い上の注意

当資料に記されたユシロの現在の計画・見通し・戦略等のうち歴史的事実でないものは、現在入手可能な情報から得られたユシロの経営者の判断に基づいた、将来の業績に対する見通しであります。従いまして、これら業績の見通しのみ全面的に依拠されることは控えるようお願いいたします。実際の業績は、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。

実際の業績に影響を与え得るリスクや不確定な要素には、以下のものが含まれます。

- ①ユシログループの事業環境を取り巻く世界情勢
- ②世界の原油価格動向
- ③米ドルを中心とした為替レートの変動
- ④偶発事象 等

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確定な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでユシロをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。

